



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	テンスの「た」とアスペクトの「た」
Author(s)	山下, 好孝; Yamashita, Yoshitaka
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 8, 1-13
Issue Date	2004-12
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/45642">https://hdl.handle.net/2115/45642</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC008_001.pdf



## テンスの「た」とアスペクトの「た」

山下好孝

### 要 旨

本稿は、日本語教育におけるテンスとアスペクトの導入で、これまで留意されなかった点を指摘する。

動詞「た」形にはテンスとアスペクトの両方の機能が認められる。それが疑問文に用いられ、答えの文で否定形が現れる際、テンスとしての「過去」、アスペクトとしての「完了」の解釈が顕在化する。

従来は過去の一時点を示す時の副詞と共起する場合、および当該事態が過ぎ去ったこととして解釈される場合は、過去否定形「～なかった・～ませんでした」が使われるとされてきた。しかし、二人の外国人の日本語学習者がそれに対して疑問を呈した。過去を示す副詞と共起する場合でも、これらの形式が使われず、「～ていません・～てないです」というような形式が否定の答えに現れると報告している。

上記の報告をデータとして、「過去否定形」が生起する条件を考察した。そして話し手と聞き手の間に「過去の場の共有」が存在することが、過去形の生起の引き金になると結論づけた。

〔キーワード〕 テンス、アスペクト、のだ文、指示詞

### 1. はじめに

日本語の「た」形は過去を表す場合と、完了を表す場合がある。そのことは日本語教育に於いても重要なポイントで、日本語教育能力検定試験の模擬試験などにも取り上げられている。

- (1) 「～ましたか」という質問には、「去年／先週／夏休みに、～ましたか」のように、「過去のその時にしたかどうか」と、「特に『いつ』というのでなく、今までにしたかどうか」の、2つの意味があります。「過去のその時にしたかどうか」を聞かれたときには、「はい、～ました／いいえ、～ませんでした」を使ってこたえます。「先週／夏休

みに、映画を見ましたか」という質問には、「はい、」見ました／いいえ、見ませんでした」と答えます。

でも、「今までにしたかどうか」を聞かれたときには、「はい、～ました／いいえ、～ていません」を使って答えます。「今やっている怪獣の映画を見ましたか」という私の質問は、「今までに見ましたか」という意味ですから、「いいえ、見ていません」と答えたほうがいいですね。 [後略]

日本語教育能力検定試験完全攻略模擬テスト問題 (2001) アルクp260

つまり「過去の一時点を表す副詞＋た」は過去、「もう／今までに＋た」は完了と教えるわけである。

もちろん研究書にも同様の記述がある。工藤真由美 (1995: 129) では、

- (2) 先月、中国へ行きましたか?／いいえ、行きませんでした。  
もう、中国へ行きましたか?／いいえ、まだ行ってません。

という記述があり、共起する副詞が「過去」を表すか、「完了」を表すかによってテンスとアスペクトの区別しなければならないとしている。

また庵 (2001: 145) には

- (3) A: (午後6時ごろに) 昼ご飯を食べましたか。  
B1: はい、{ $\phi$  / \*もう} 食べました。  
B2: いいえ、{食べませんでした / \*まだ食べていません}。  
(4) A: (午後1時ごろに) 昼ご飯を食べましたか。  
B1: はい、{ $\phi$  / もう} 食べました。  
B2: いいえ、{? 食べませんでした / まだ食べていません}。

という記述がある。質問している行為が、発話時間に近いかどうかによってテンスとアスペクトを使い分けるといふ説明がなされている。

ところがアッタニーポーン・馬 (2002) によると、この公式は日本人の使用の実態と必ずしも一致しているものではないと言う。その中で次のような観察をしている。

- (5) 初級日本語教科書では「～ましたか」の質問に対して「～ていません」と答えるのを初級の学習者に導入する時は、「もう」と「まだ」を教える時である。よく使われている例文は

Q：「昼ご飯を食べましたか。」

A：「はい、もう食べました。」

または「いいえ、まだ食べていません。」で、「～ていません」は続いている状態を説明する。しかし、実際は、去年のことやもっと昔のことを聞いても、「～ていません」「～てないです」という答え方をする人もいる。

確かに、筆者自身が観察した実例

- (6) 教師：ホセさん、昨日、小樽に行きましたか？

学生：いいえ、行きませんでした。

という問答にも不自然さが伴う。

本稿は、アッタニーポーン・馬（2002）で提示されたデータを紹介し、その上で過去否定形「～ませんでした」が使われる環境について考察を行う。単に「その事象が過去に生じた」というだけでは「過去否定形」は使われない。過去否定形「～なかった／～ませんでした」が使われる条件を解明することを本稿の目的とする。

## 2. データ

アッタニーポーン・馬（2002）は、以下のような例文を作り、日本人に対して調査をおこなった。調査方法は多肢選択の質問紙による調査で、日本人に指定された場面で自分にとって、日本語の文法的に正確な言い方かどうかではなく、最も自然だと思う答えを選択してもらおうというものである。対象者は30人で、内訳は男性13人、女性17人、大学生25人、社会人5人というものである。回答の文の頭に、該当する文が最も自然であると答えた日本人の数を記す。（以下、原文のまま）

以下の場面であなたにとって、最も自然な答えに○を付けて下さい。

1. あなたは指導教官にどう答えますか。  
指導教官：先週、勉強会に行った？  
学生：【14】いえ、行きませんでした。  
【5】いえ、行っていません。  
【4】いえ、行かなかったです。  
【7】いえ、行ってないです。
2. 病院で医者に診察してもらう時、あなたはどう答えますか。  
医者：昨日、お酒を飲みましたか。  
患者：【9】いえ、飲みませんでした。  
【10】いえ、飲んでいません。  
【2】いえ、飲まなかったです。  
【9】いえ、飲んでないです。
3. 新聞記者に話しかけられるとき、あなたはどう答えますか。  
新聞記者：ワールドカップのフランス大会を見ましたか。  
あなた：【6】いえ、見ませんでした。  
【6】いえ、見ていません。  
【6】いえ、見なかったです。  
【12】いえ、見てないです。
4. 大学の同窓会で会った部活の先輩にどう答えますか。  
先輩：君、去年、またインドに行ったの？  
後輩：【6】いえ、行きませんでした。  
【4】いえ、行っていません。  
【19】いえ、行かなかったです。  
【1】いえ、行ってないです。
5. あなたは近所の人に聞かれた時、どう答えますか。  
近所の人：昨日の夜、石田さんの家でも変な音が聞こえましたか？  
あなた：【9】いえ、聞こえませんでした。  
【2】いえ、聞こえていません。  
【18】いえ、聞こえなかったです。  
【1】いえ、聞こえてないです。
6. あなたは近所の人に聞かれた時、どう答えますか。  
近所の人：田中さんはゴールデン・ウィークにいつも海外旅行に行っていますね。今年も行きましたか。

あなた : 【12】 いえ、行きませんでした。

【6】 いえ、行っていません。

【7】 いえ、行かなかったです。

【5】 いえ、行ってないです。

7. あなたは修学旅行で東京から新幹線で京都へ行きました。バスの中でガイドさんと話して、あなたはガイドさんの質問にどう答えますか。

ガイド : 今朝、新幹線で富士山のそばを通ったんですね。

富士山、見えましたか？

あなた : 【16】 いえ、見えませんでした。

【2】 いえ、見えていません。

【11】 いえ、見えなかったです。

【1】 いえ、見えてないです。

8. 新聞記者に話しかけられたとき、あなたはどう答えますか。

新聞記者 : ワールドカップの試合、見ましたか。

あなた : 【9】 いえ、見ませんでした。

【9】 いえ、見ていません。

【6】 いえ、見なかったです。

【6】 いえ、見てないです。

9. 先週の授業について、一緒に授業を受けている大学の先輩に話しかけられました。あなたはどう答えますか。

先輩 : 先週の山田先生の授業、分かった？

後輩 : 【8】 いえ、分かりませんでした。

【0】 いえ、分かっていません。

【21】 いえ、分からなかったです。

【1】 いえ、分かってないです。

10. 客室乗務員の水泳試験で、知り合った木村さんと話しています。

あなたは木村さんにどう答えますか。

木村 : 中野さん、水泳すごく上手ですね。小さいときに既に、水泳が出来たんですか？

あなた : 【14】 いえ、できませんでした。

【0】 いえ、できていません。

【14】 いえ、できなかったです。

【2】 いえ、できてないです。

そして、アッタニーポーン・馬 (2002) は調査結果を次のようにまとめている。

1. 「～ませんでした」は平均として32.34%しか使われていない。
2. 昨日のことや最近起こったことについて話すときは「～ていません」と「～ていないです」の言い方をすることが多い。
3. 過去が遠くなればなるほど、「～ていません」や「～ていないです」の割合が少なくなり、その代わりに「～なかったです」が多くなる。
4. 「～ませんでした」の使い方に関しては時間の違いとあまり関係ない。
5. 「聞こえる」「見える」「分かる」「できる」等の無意志動詞の場合は「～ませんでした」「～なかったです」～が圧倒的に多く、「～ていません」と「～てないです」は1割も満たない。
6. 社会人と大学生の答えを比較したところ、社会人のほうが「～ませんでした」を使う傾向が高いと見られた。ただし、この調査の社会人は全て教育機関に勤めている教師及び教務係であるため、特別な言い方を持っているグループかもしれない。
7. 「～ませんでした」がわりと多く使われている場合は丁寧さの程度が高い、相手との距離が遠いと考えられ、「～なかったです」は丁寧さの程度が低く、相手との距離が身近い場合によく使われる。

アッタニーポーン・馬 (2002) は、機械的な過去否定形の導入に警鐘を鳴らしたもので、言語の記述として価値のあるレポートである。以下の章ではこの研究をもとに過去否定形生起の条件を探る。

### 3. 考察

では、「～ませんでした」という形式が使われるのはどのような環境に於いてであろうか。

序章で述べたように

- (7) 教師：ホセさん、昨日、小樽へ行きましたか。  
学生：いいえ、行きませんでした。

という問答には不自然さが伴う。このような質問には

(8) 教師：ホセさん、昨日、小樽へ行きましたか？

学生：いいえ、行ってませんけど、、、。

というふうな答えが自然である。

なぜこのような「～ていません」のような未完了形を使った答えが自然になるのだろうか。

上の(7)での問答では、教師が「唐突に」学生に昨日のことを質問している。このような質問をされると、答える方は「なぜ、このような質問をされるのだろう」といぶかしく思うであろう。たとえば

(9) 教師：ホセさん、昨日、焼き肉を食べましたか？

と質問されたら、答える方は「焼き肉の臭いがいまでも残っているのだろうか」などと気にして

(10) 学生：いいえ、食べてませんけど、、、匂いますか？

などというふうに過去の質問でありながら、現在と結びついた未完了形を使って答えるのだと考えられる。

では、「～ませんでした」がふさわしいのはどのような場合であろうか。次の問答を見て頂きたい。

(11) 学生：昨日小樽へ行きました。

先生：おもしろかったですか。

学生：ええ、とても。いろんなところへ行きました。

先生：〇〇ガラスでガラス細工を買いましたか。

学生：いいえ、行ったんですけど、お金がなかったので買いませんでした。

この会話なら自然である。つまり「過去の場の設定→質問→答え」という流れならば「～ませんでした」という答えが可能になるのである。

前節で紹介したアッタニーポーン・スサンサニー・馬文莉 (2002) のデータを再検討してみよう。ここでは便宜的に

行きませんでした。→ 過去

行かなかったです。→ 過去

行っていません。→ 完了

行ってないです。→ 完了

というふうに分類する。その上で例の 6. と 7. をもう一度取り上げてみる。

6. あなたは近所の人に聞かれた時、どう答えますか。

近所の人：田中さんはゴールデン・ウィークにいつも海外旅行に行っていますね。今年も行きましたか。

あなた：【12】いえ、行きませんでした。

【6】いえ、行っていません。

【7】いえ、行かなかったです。 過去：19

【5】いえ、行ってないです。 完了：11

7. あなたは修学旅行で東京から新幹線で京都へ行きました。バスの中でガイドさんと話して、あなたはガイドさんの質問にどう答えますか。

ガイド：今朝、新幹線で富士山のそばを通ったんですね。

富士山、見えましたか？

あなた：【16】いえ、見えませんでした。

【2】いえ、見えていません。

【11】いえ、見えなかったです。 過去：27

【1】いえ、見えてないです。 完了：3

6. と 7. に見られる過去と完了の生起の違いは、「過去の場」の設定によるものであると考えられる。7. のように話し手と聞き手の間に過去の場が設定されていると、過去形「～ませんでした」「～なかったです」という答えが多くなっている。

つまり、過去形が典型的に用いられるのは話し手と聞き手の共通の「過去の場」が設定されたときだとも言える。「過去の場」が設定されること

で過去形の発話「～ました、ませんでした」が生起しやすくなるのである。もちろん、答える側が、過去の出来事を現在と結びつけて発話するなら、「～ていません、～てないです」が使われることもある。

逆に、過去の場が設定されると、アスペクトの表現に影響を受ける場合もある。庵（2001：148-149）に挙げられている例を見てみよう。

- (12) パリに行ったとき、かばんを買った。  
パリに行ったとき、かばんを買おう／買うつもりだ。
- (13) パリに行くとき、かばんを買った。  
パリにいくとき、かばんを買おう／買うつもりだ。

(12)では、かばんを買うのはパリでということになり、(13)では、パリに出発する前に（たとえば成田空港で）かばんを買うことになる。「行くとき／行ったとき」というのは主節の「買う」の成立時点を基準点にするアスペクト的表現なのである。

しかしながら、(12)の文の先頭に、「去年」という過去を表す副詞をつけてみよう。すると

- (12') 去年、パリに行ったとき、(成田空港で) かばんを買った。

という文が成立する。文の最初に「去年」という過去の場が設定されてしまうと、テンス表現がアスペクト的表現に優先されることになるのである。

いずれにせよ「過去」というテンス的な表現には「過去の場」が設定されることが必要なのである。

この主張を裏付けるものとして、さらに、指示詞の用法がある。周知のように「こ」系、「そ」系の指示詞は過去でも、未来でも用いられる。

- (14) 私は12年前に札幌に来ました。その／このときから  
東区にすんでいます。
- (15) 彼がもうすぐ部屋にやってきます。彼はドアをノックします。  
その／このときに、このスイッチを押すんですよ。

一方「あ」系の指示詞は過去の場面でしか使用できない。未来の文脈に

は生起できないのである。

- (16) 彼がもうすぐ部屋にやってきます。彼はドアをロックします。  
\*あのとときに、このスイッチを押すんですよ。

さらに、「あ」系の指示詞が指し示すものは、話し手と聞き手に共通して知られたことがらでなければならないという性格をもつ。

- (17) 学生：先生といつか大阪でお会いしましたね。  
教師：あれは3年前でしたね。

つまり、過去と強く結びついた「あ」系指示詞の使用に関しても「過去＝話し手と聞き手が共有する場面」という定式がなりたつのである。

ただし、話し手と聞き手に「過去の場」が共有されると、今度は質問文のほうに単なる過去形を使うと不自然になってしまう場合が生ずる。

- (18) 学生A：昨日、デパートで会いましたよね。  
学生B：ええ、新しい靴を探していました。  
学生A：？それで、新しい靴は買いましたか？  
学生B：いいえ、結局、買いませんでした。

このような場合

- (19) 学生B：それで、新しい靴は買ったのですか？

という「のだ文」を使う方がふさわしい。

「のだ文」を扱った中野（2004：26）によると、「のだ文」にはつぎのような意味特徴ある。

- (20) 「のだ」の機能 — 既定化

「のだ」は、命題が話し手の情報領域に既に存在している事柄であると、話し手自身が主観的にみなしていることを明示する。

既定化が「のだ文」の生起を特徴づけるならば、少なくとも発話者の意識の中に、「その事態がすでに成立している」との認識があることになる。そしてそれを疑問文として聞き手に発しているということは、話し手と聞き手の間に「共有の場面」設定をしていることになる。

逆に、「場面の共有」がまだ生まれていない文脈で「のだ文」を使用すると、不自然さが生ずる。

②) 学生：先生、おはようございます。

教師：おはよう。ホセさん、昨日、小樽へ行ったんですか。

学生：い、いえ、行ってません。

このように過去形の生起には「話者と聞き手の場面の共有」という条件が関与する。単に、過去を表す時の副詞が生起したとき過去形が使えるという説明では不十分であることを何らかの形で日本語教育でも学習者に理解させる必要があろう。

#### 4. まとめ

日本語の「た」形には過去を表す用法と完了を表す用法がある。しかしながら、従来から言われているような「過去の一時点を表す副詞」と共起すれば過去を表し、「もう」とか「今までに」とかいう副詞と共起すれば完了を表すなどという説明では不十分である。

たとえ過去の一時点を表す副詞と共起しても、「た」形が現れる述語の表す事態が、なんらかの形で現在と結びついている場合には、「た」形は完了を表しうる。

「た」形が過去を表すのは、それが現れる場面が話し手と聞き手に共有される場合である。「過去」と「場面の共有」には、「あ」系の指示詞の使用が関連する。また「話し手と聞き手の場面の共有」には「のだ」文の生起とも関わってくる。

日本語教育では通常「ます」形もしくは Polite form が「だ・である」体の plain form に先だって導入される。確かに「～ます・～ません・～ました・～ませんでした」という活用のパラダイムは規則的で学習しやすい。しかし、学習者に分かりやすいからといって、過度の単純化をはかり、その使用に付随する制限を無視しては日本語教育にマイナスの効果をおよぼ

してしまう。

「ました・ませんでした」という過去の形式を日本語教育の初期段階に導入したとしても、「ました・ていません」という完了の形式を導入する際に、改めて過去形の使用制限について触れることが必要である。

#### 参考文献：

- 1) アッターニーポーン・スサンサニー・馬文莉 (2002) 北海道大学大学院 国際広報メディア研究科修士課程、比較日本語論演習期末レポート
- 2) 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門』スリーエーネットワーク
- 3) 工藤真由美 (1995) 『アスペクト・テンス体系とテキスト』、ひつじ書房
- 4) 中野友理 (2004) 『日本語の「のだ」文の持つ特性と言語普遍性－韓国語との対象から－』平成15年度北海道大学大学院国際広報メディア研究科修士論文
- 5) 拙稿 (1994) 「日本語の指示詞とその教授法」『北海道大学留学生センター年報』2、167-181

やました よしたか (留学生センター助教授)

## On tense - marking TA and aspect - marking TA

Yoshitaka YAMASHITA

The Japanese TA form has two functions: marking tense and aspect. When the TA form appears with past time adverbs, it implies past tense. On the other hand, when it appears with aspectual adverbs like MOU or MADA, it implies aspectual meanings.

- 1) Kinou Otaru-ni itta.
- 2) Mou Otaru-ni itta.

The negative forms of tense marking TA and aspect marking TA are said to be NAKATTA and -TE INAI respectively.

- 3) Kinou Otaru-ni ikanakatta.
- 4) Mada Otaru-ni itteinai.

But two foreign graduate students at Hokkaido University reported that this rule is often invalid in daily conversation:

- 5) Kinou osake-wo nomimashita-ka?
- 6) Iie, ? nomimasendeshita / nondeimasen / ?? nomanakattadesu. / nondenaidesu.

In this article I propose one condition on the appropriate use of the NAKATTA / MASENDESHITA forms, and conclude that these forms are possible only when a past context is shared by both the speaker and the hearer in the conversation. I also mentioned the correlation between the past context and the A series demonstratives, which imply shared knowledge between the speaker and the hearer. Finally I comment on the appearance of the NODA construction in past tense sentences.